

北森カレッジで知った 組合の仕事。 森林調査や現場監督など 日々充実しています

北森カレッジ2期生 2023年卒業
深川市 | 北空知森林組合
向井 琳さん

山で遊んでいた幼少期。 自然や山に関する仕事に 興味がありました

馬産地として知られる浦河町出身の向井さん。幼い頃から狩猟免許を持つ父親と一緒に地元の山に入って遊んでいたと言います。「自然の中にいるのが好きで、父が山に行くときはいつもついて行っていました。木登りをしたり、山菜採りをしたり、父が撃った鹿を運ぶ手伝いをすることもありました」。小柄でかわいらしい姿からは想像もできませんが、ワイルドな幼少期を過ごしていたそうです。自然の中で聴く風や木々の音、空気、山や森の景色が好きだったと話します。

向井さんが北森カレッジのことを知ったのは、高校2年生のときでした。総合学習の時間で就業体験をする機会があり、浦河町の林業会社を訪れた際、その会社の人から北森カレッジのことを教





えてもらいます。「山が好きだったので、将来仕事をするなら山や自然に関することがいいなと考えていました。そのときはまだぼんやりとそう思っていただけでしたが、北森カレッジのことを聞いて、そういう学校があるなら行ってみたいと思いました」と振り返ります。

山好きが集まっている北森カレッジ。 楽しかった授業はさまざまな現場実習

高校卒業後、すぐに林業関係の会社に就職することも考えましたが、「山や木の知識を学んでから就職してもいいな」と考え、北森カレッジへの入学を決めます。

40人の同級生のうち、向井さんを含めて女子生徒は6人でしたが、女子が少ないことにまったく抵抗はなかったと言います。「北森カレッジに集まっているのは、男女関係なく山や自然が好きなお人ばかり。興味や関心のあることが同じなので話していても楽しかったです」。



北森カレッジでの学びは座学もたくさんありますが、豊富な野外実習も大きな魅力。向井さんも野外実習が楽しかったと話し、中でも野生動物の保護に関する授業が好きだったと言います。「野生動物の生態について学べたのが楽しかったです。阿寒の実習で鹿の箱罠などを初めて見たのがとても印象に残っています」。また、森林調査も好きだったと言う向井さん。「普段見ている山と異なる視点で山を見るのが面白かったです」とその理由を話します。

北森カレッジにはさまざまなクラブ活動があり、向井さんは山菜部に所属。山の中に分け入って、春は行者ニンニク、秋はキノコなどを採取していたそう。実習でも山に入るのに、休みの日も山に入るとは、本当に山好きなのが伝わってきます。「山菜部のほかに、本格的に山に登る山部などもあって、北森カレッジの生徒はみんな山に入るモチベーションが高かったですね」と笑います。ちなみに冬場は、先生が仕留めた鹿で鹿肉パーティーを開いたこともあったそう。

就職先は希望した森林組合。 周囲に支えられながら日々勉強です

現在、北空知森林組合に勤務している向井さん。「授業で学んだ森林調査を仕事でもやりたいと思ったので、森林組合への就職を考えていました。ちょうど、両親が当別町へ引っ越したこともあり、割と近い空知管内で探していました。就業実践実習でもお世話になった北空知森林組合は規模が大きく、いろいろなことに挑戦できるかなと思ってここに就職を決めました」と話します。



販売課に配属され、先輩や上司について山へ出向き、現場監督や森林調査を行うほか、販売する木材の数値入力などのデスクワークも行っています。北森カレッジで学んだことで、特に役に立っていることは何かと尋ねると「専門用語かな」と答えが返ってきました。林業特有の専門用語は多々ありますが、「それらを北森カレッジで教えてもらっていたおかげで、はじめから組合員の方たちの会話にもある程度はついていきました」と話します。このほかにも、「授業で学んだことは役立っていると思います。何も知らないでこの世界に飛び込むより、座学や現場での実習を通じて、少しでも知識をつけているというのは大きいと思います」と続けます。「とはいえ、やはり毎日勉強です。今は、毎日先輩について山の仕事を学ばせてもらっています」。現場へ行くときは大きな四輪駆動車を運転し、現場ではスノーモービルや重機を操

縦することもあります。「緊張しますが、練習を重ねて少しずつ慣れていきたいと思います」と話し、「現場に作業員の方たちが入る前に除雪をして、皆さんに『ありがとう』と言ってもらえると、やはりうれしいですし、がんばろうって思えます」とニコリ。また、山での仕事は危険との隣り合わせ。安全第一ですから、「ときに厳しいことを言われることでもあります、それは安全のためだと分かっているので気にはなりません」と話します。

休みの日には、旭川市へ行って北森カレッジの同級生たちと会ったり、近隣の林業会社に勤める「林業女子」と遊んだり、プライベートも楽しく過ごしているとのこと。組合関連の研修会などで、ほかの森林組合に就職した同級生らと顔を合わせることもあると話します。

向井さんの話を聞いていると、大好きな山や木々にまつわる仕事に携わることができ、日々充実している様子が伝わってきます。これからの目標について、「一人で現場を持てるようになることと、冬場に雪の中に入って行くのは思っていた以上に体力が必要なので、もっと体力をつけたいです」と最後に笑顔で語ってくれました。



Company Message

向井さんのコミュニケーション能力の高さと女性の視点に期待しています

北空知森林組合／参事 久村 尚史さん

私自身、北森カレッジの設立時から関わり、講師もさせてもらっています。林業に携わる人が少しでも増えてくれたらと、業界関係者はみんな北森カレッジに期待しています。向井さんは何度か実習に来てくれていたのですが、人柄がとてもよく、うちに来てもらえたらと思っていました。山の現場は年配者の方も多いのですが、向井さんはすぐに溶け込めるコミュニ

ケーション力があり、指導や管理も必要な組合の仕事は向いていると思います。林業用語を北森カレッジで学んで入ってきてくれるのもありがたいです。実は現場の職員で女性の採用は初めて。男社会だった林業も変わり始めています。女性職員の先駆けとして、向井さんだからこそできることや良さを生かしてもらえたらと思います。